2023年度横浜市立大学学術研究会総会議事録

日時：2023年6月29日（木）17：00～18：15
開催形態：オンライン（Zoom利用）
出席者：鞠、板垣、沓名、長畑、中谷、原、藤﨑（左記7名は正会員）、
　　田代智夏（学生会員）
委任状：65通

※以下、本総会での議決を**創英角ゴシック体**で示す。

議 題

1.　定足数の確認、議長／議事録署名人選出

出席7名、委任状65通により、定足数を満たしていることを確認した（総議決権数は98）。鞠先生を議長に選出し、原先生と中谷先生を議事録署名人に選出した。

2.　2023年度役員の選任　　資料1

原案のとおり、2023年度役員が選任された。

3.　2022年度活動報告　　資料2

事務局より2022年度の活動報告がなされ、出席者一同、了承した。
『学生論集』の編集・刊行が遅れている理由について質問がなされた。これに対する回答は、
①コロナ禍の下、対面折衝が封じられたため、校閲の分担決めや依頼、著者やそのゼミ指導教員への連絡が困難であった
②投稿された論文は総じて形式面（出典表記、書式等）に問題があり、掲載可否の判断に苦慮したものもある。掲載可とした場合も、編集委員会が原稿に相当手を入れざるをえなかった等。
現在、61号はゲラ刷りの校正段階に入っており7月末に刊行予定、62号はまもなく校閲が完了するのでこのまま粛々と作業を進めるとして、63号の早期刊行を実現するための対策を検討した。その結果、2分冊に分けて刊行する、すなわち校閲および著者による原稿修正を経て入稿準備の整った論文がある程度の本数に達し次第、先に刊行するという提案がなされ、運営委員会で検討することとした。
（上記のほかに議題「7.その他」でも『学生論集』の改革案が出されたので、要参照。）

4.　2022年度決算報告　　資料3―①、②

事務局より2022年度の決算報告がなされた。
収入については、正会員数の減少によって会費収入が低下しているものの、横浜市立大学新叢書の販売収入が伸び、全体としては変化がなかったとのこと。支出は前年度同様に過去最低水準にとどまった。
出席者一同、報告内容を了承した。

5. 2022年度監査報告

(1)会計監査報告 資料4

(2)業務評価報告 資料5

藤﨑先生（会計監査人）より2022年度会計監査報告および業務評価報告がなされた。

会計については問題ないとのこと。業務評価では、事務室内の備品点数が増えてきており、かつ教員からの貸与備品が混在する状況であるので、管理上の工夫（各備品に管理番号を記したラベルを貼付）が必要との指摘がなされた。また、教員からの貸与備品については、賃貸借契約の締結が望ましいとのこと。

以上の点を含め、出席者一同、了承した。

6. 2023年度事業計画及び予算案審議 資料6 資料7

議長および事務局より事業計画案と予算案について説明がなされた。

予算案において、予定支出が高額となった主な理由は次のとおり。

①刊行が遅れている2020年度および2021年度の『学生論集』の印刷製本代金を計上

②長年の課題とされてきた『論叢』バックナンバー（2010年度以前に刊行された号すべて）の電子化業務の外注料金（60万円）を計上

③①・②による事務作業量増を考慮し、スタッフを増員したことによる人件費増

コロナ禍による活動低調のため、2020年度から支出が財政規律（年間540万円）を下回っていたので、その差分を今年度の予算に回すことで財政の均衡を図りたいとのことであった。

以上の点を含め、出席者一同、承認した。

7. その他

『学生論集』および学生の研究発表・論文執筆支援に関する提案がなされた。

『学生論集』については、在学生の研究成果発表の媒体としても積極的に活用してもらうよう更にPRする。ゼミ等での発表を刊行できるとなれば、調査研究のモチベーション向上につながることが期待される。在学生からの投稿需要はあると思うので、増刊（現状は年1冊であるが、2冊とし、優秀卒業論文と在学生の研究成果は別々に収録する）も視野に入れて今後の運営委員会で検討することとした。

上記に対し、本総会に参加した学生会員の田代氏より、在学生にとって、論文投稿のハードルは高いように思われるので、論文執筆に必要な見識や素養を培うためのトレーニングの場を提供してもらいたいとの要望が出された。

これを踏まえ、学研が主催し、正会員各位に協力を要請して研究発表会（コンテスト形式にしてもよい。また、ポスターセッションを設けてもよい）を行うというアイディアが出された。学生にとって発表が小さな成功体験となり、就職活動の際のアピールポイントになることも期待される。最初はごく小規模な開催となってもよいと思われ、予備費で費用をまかない、テスト開催することを運営委員会で検討することとした。

また、研究発表会の開催に加え、学外のビジネスコンテストの参加報告を発表できる媒体（会報など）づくりも今後の課題とすることとした。

以上、2023年6月29日開催の総会の議事内容に相違ありません。

2023年10月6日 2023年10月10日

議事録署名人氏名：中谷 常 印 議事録署名人氏名：原 右司 印